日本一のアカペラ披露

男性5人組「じゃーんず」 各地の被災者を歌で激励

アカペラ日本一に輝いたことのある「じゃーんず」（写真右の５人）が見事なハーモニーを披露＝陸前高田市

声だけのハーモニーによる「アカペラ」で歌唱力を競うテレビ番組に出演して日本一に輝き、いまではプロ活動をしている北海道の男性5人組「じゃーんず」をはじめ、世界的に知られる岩手ピアノ奏者らが5日、大船渡市と陸前高田市の被災地でミニコンサートを開き、地区民を励ました。

訪れたのは、「じゃーんず」をはじめ、ピアノ奏者の松永貴志さん、6人組男性アカペラグループRAG FAIR（3月で活動休止）でボイスパーカッションを担当していた「おっくん」ら。大船渡市の末崎中、陸前高田市米崎町の松峰公園、同市気仙町の金剛寺の3カ所でコンサートを開いた。

このうち、松峰公園には約150人が集まった。じゃーんずのメンバーはオリジナル曲のほか、西城秀樹のヒットナンバー『YMCA』、サザンオールスターズの『いとしのエリー』といった広く知られた歌を披露した。

地区民は体でリズムを取り、手拍子を打ちながら心和むひとときを過ごし避難生活の疲れを癒した。最後は『ふるさと』を大合唱。震災からの復興に向け、勇気づけられる歌詞に涙ぐむ人の姿もあった。

今回のミニコンサートは、震災後に北上市で被災地を支援しようと立ち上がった住職・司東道雄さん（45）が代表を務める「ゆいっこの会」の主催。司東さんの知人や活動に賛同したプロたちに出演してもらった。

震災発生後、司東さんは毎日のように大船渡市と陸前高田市を訪れ、自身のツイッターによる呼びかけで集まった救援物資を各地の避難所に届ける活動を展開している。

米崎町の松峰地区を知ったのは、同地区で被災した津田文子さん（72）と知り合ったのがきっかけ。大津波が来襲した数日後、津田さんは地元の米崎コミセンに開設してある県立高田病院に、車いす生活となっている夫・龍夫さん（77）の薬をもらいに出かけた帰り道に北上市の給食センター車を見つけた。

当時、自宅の被災は免れたものの、電気も食料もなく空腹で、思わず「食料はありませんか」と恥を忍んで車に乗っていた人に声をかけた。その時、乗車していたのが司東さんだった。

司東さんは津田さんと一緒に松峰公民館まで行き、保存食や布団などの救援物資を置いていった。その後、同公民館にさまざまな物資を届けている司東さん。豚汁の炊き出しを行ったこともあった。

津田さんは「震災前、テレビを見ながら『世の中には悪い人が多いなあ』と思っていましたが、そんなことはありません。今回の震災で多くの人の情けを知りました。自分の生活にめどがついたら必ず北上市を訪れ、司東さんに直接お礼を述べたいと思います」と目を潤ませていた。

心も体も「のびっ」

凝り固まった体、外で元気にほぐそう――。同市と「銀河連邦」で結ばれる神奈川県相模原市の職員が呼びかけ、大船渡市の避難所の一つ・リアスホールでラジオ体操を実施。避難所でも、子どもたちの心と体は柔軟だ＝盛町

被災者子弟の転入学受入れ

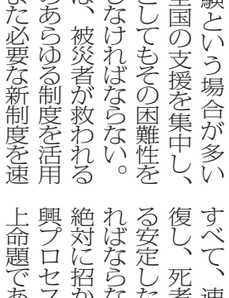
岐阜・済美高校

岐阜市にある学校法人岐阜済美学院済美高校は、東日本大震災被災者子弟の転入学を受け入れる。

内容は、①平成23年度高校第3学年在籍予定の男子生徒10人②その子弟の学費は無償とし、宿舎等の費用についても同校が負担する③国公立大学等への進学を強く希望する人④受け入れ期間は23年5月9日～24年3月31日までの1年間⑤申込期間は4月28日（木）まで。

連絡先は（℡058・271・0345）山本教頭まで。

東日本大震災のよりよき復興にむけて（上）



佐藤　隆雄（独）防災科学技術研究所客員研究員

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、今なお、災害そのものが完全に収束したとは言えず、人命救助や捜索活動が続けられているが、徐々に復旧・復興の課題がウエートを増しつつある。前代未聞の今回の災害からの復興には、長期間を要し、かつてない困難に直面すると思われるが、阪神・淡路大震災の国内外での災害復興の経験をもとに、現時点で考えうる重要点を記し、今後のよりよき復興の一助となることを願うものである。

1、今回の災害の特徴

戦後最大の死者を出した東日本大震災は、1923年に起きた関東大震災や阪神・淡路大震災とも異なる特徴を持つ災害である。それは、一言でいえば、地方都市とその周辺域の高齢社会を襲った超広域・複合災害である。

①超広域性

第1に、今回の地震は、予想されていた宮城県沖の地震であるが、実際にはその範囲にとどまらず、岩手県から茨城県沖の南北400㌔、東西200㌔の岩盤が破壊され、その結果、地震の規模そのものが予想をはるかに超えた（M9・0）。

この地震エネルギーが巨大津波を引き起こし、南北500㌔の広域に被災地が孤立点在することとなった。

②複合性

今回の災害でみられた現象として、少なくとも地震の揺れ、津波、火災（コンビナート火災山火事含む）、地すべり、原発事故がある。これはいわば、〈奥尻＋スマトラ＋四川＋原発〉型とでもいうべき複合的な災害である。つまり、奥尻型の津波・火災がスマトラ並みの規模で起こり、四川のような広域に点在する小都市・集落を襲ったのであるが、さらに、そこに原発事故が加わり、かつて経験したことのない災害になっている。このような複合型の被害であることが、復旧・復興に際して、以前にもまして、難しい問題を投げかける。

③高齢化の進む地方小都市・集落を襲った災害

阪神大震災の場合は、大都市とその都市圏内にある都市・集落が被災地であった。今回の被災地は、仙台都市圏も含まれており、大都市からかなり離れた小都市と集落である。また、阪神大震災のときに比べて、日本経済の力は低下しており、高齢化の進行、失業率の上昇など、復旧・復興に際しての困難は増している。

2、復旧・復興の困難性

地方の高齢社会、超広域、複合災害という特徴が